

第34期 中間株主通信

2011年10月1日～2012年3月31日

[証券コード:2362]

株式会社 夢真ホールディングス

<http://www.yumeshin.co.jp/>



人と人とのめぐり合いで みんなの夢を真にする会社

当社の社名「夢真」には、読んで字のごとく、
「夢を真（まこと）にする」という意味が込められています。

人と人とは他人に思っても必ずどこかで繋がっています。
人と人とがめぐり会うことで道は開け、可能性は無限に広がっていきます。

当社は、株主さま、お客さま、従業員、
そして夢真グループにかかわるすべての方々の可能性を追求し、
その夢を真にすることをミッションと考えています。

株主さまとともに

透明性のある企業経営を実践し、健全な成長・安定した還元に努めます。

従業員とともに

独自の研修プログラムで、ひとりひとりの成長を援助します。

お客さまとともに

必要な時に・必要な人数・必要な場所に・必要なスキルを持った人材を提供します。

社会とともに

新卒・若手の人材を積極的に採用し雇用の創造に努めます。

夢真ホールディングスグループの事業領域



(株)夢テクノロジー
エンジニア派遣事業



YUMESHIN

株式会社夢真ホールディングス
建築技術者派遣事業



(株)我喜大笑
子育て支援事業



(株)夢真メディカルサポート
医療介護支援事業

(株)ユニテックソフト
エンジニア派遣事業



社会が必要とする高付加価値の人材派遣を追求し 企業価値の向上に努めてまいります

代表取締役会長兼社長 佐藤 真吾



堅調な業績の背景についてお聞かせください。

当社グループは、大手建設会社が手がける案件に、当社の技術者を派遣する建築技術者派遣事業を中核事業としています。建設業界では、新設マンション着工の回復、東日本大震災の影響による首都圏近郊での改修・補修工事、耐震補強工事の増加等に加え、東京都内のオフィスビルの着工も増加しています。特に都心を歩いていますと工事現場がやたらと目につき、新しいオフィスビル需要の顕著さを感じます。

一方で、経営の効率化を要求されている大手建設会社の慢性的な技術者不足は深刻です。さらにその就業者の3人に1人が55歳以上という高齢化と若手不足の現状は、もはや看過できない状況と言えます。

そうした建設業界の現状改善に正面から取り組み、若手技術者を建設業界に供給する当社の建築技術者派遣事業は、建設会社を幅広くサポートするとともに、建設業界の将来を担う人材を育成することとなり、当社の業績にも継続的に寄与してまいります。

業績を上方修正されましたがその要因は？

2012年9月期の第2四半期をしめた時点で、累計の業績は当初の予想を上回り、売上高5,432百万円（前年同四半期比89.3%増）、営業利益594百万円（同63.3%増）、経常利益638百万円（同74.8%増）、四半期純利益393百万円（同145.6%増）となりました。業績の上方修正については、過去の積み重ねが成果となって表れたものであり、特にサプライズとは感じておりませんが、その最大の要因は、新規の人材採用です。現在、当社建設技術者の派遣稼働率は、大手建設会社の旺盛な需要に支えられて実質フル稼働の状況が続いており、当社の技術者が増加するに比して業績が向上する状況です。リーマンショックの影響で一時的に需要が低下したように見えた技術者へのニーズが、実は構造的に存在するものであり、かつ潜在的に増加していたことを、当社は見過ごさずに人材の強化をしっかりとやってきた成果が出ていると考えています。

2012年9月期通期の見通しも上方修正しており、売



トップインタビュー

上高11,200百万円（前年同期比64.3%増）、営業利益1,300百万円（同139.5%増）、経常利益1,400百万円（同210.2%増）、当期純利益850百万円（同731.4%増）を見込んでいます。

建築技術者派遣以外の事業部門はいかがですか。

昨年5月に当社グループに加わった(株)夢テクノロジーを中心に展開するエンジニア派遣事業では、主要顧客である自動車、電機、精密機械メーカーなどの製造業各社において、東日本大震災の影響による生産の落ち込みから回復の傾向が見られました。また、営業力の強化を急務として掲げ、エンジニアの待機期間短縮に注力するとともに、引き続き管理コストの効率化を図り、収益性の向上に努めました結果、期間を通して当社グループの業績に寄与しました。その他、当社グループのすべての子会社が通期で黒字化する予想となっています。

今後のM&Aの方針をお聞かせください。

昨年M&Aによって当社のグループ会社となった(株)夢テクノロジーは、順調な業績で推移をしています。当社グループの基本方針は、「高付加価値の人材派遣事業」を中心に据えて、高い技能を有した技術者を提供するこ



とで社会に貢献することを目指しています。M&Aは、当社の成長戦略として、引き続き重要な経営手段と位置づけていますが、人材派遣事業を展開する軸がぶれることはありません。当社はさらなる成長を目指している企業であるとともに、その一方で技術者派遣業界では20年を超える実績を有しています。その経営ノウハウを活かして、グループ力をつけていきたいと考えています。現在、本業が好調で、財務的なバックアップも可能な状況です。それを見計らいながら慎重にM&Aを進めてまいります。対象としてはやはり派遣業界を中心に、当社グループに加わることでお互いに相乗効果を発揮できる規模の案件を検討していきたいと思っています。

これからの派遣業界をどのようにご覧になりますか。

成熟した欧州市場では、雇用形態の多様化によって、早い時期から人材派遣という分野が発展してきました。そのため歴史的に欧州各国の政府は、雇用改善に貢献しているとして、人材派遣事業を評価する土壌が培われています。企業も新人の採用には非常に慎重なスタンスをとっているとわれ、多くの新卒が、まずは派遣業での業務に就くことが一般的と聞いています。インフラ面でも、銀行やコンビニの路面店舗のように、派遣のための窓口が大通りに面して多数設置されています。産業自体の伸張が見られない国では、長期安定雇用という概念は徐々に薄れてくるかも知れません。そうすると今後、国内の派遣業のイメージも相当変わってくるのでしょうか。

他方、派遣という就労形態を安定性の面から危惧する風潮が国内には存在します。当社の技術者派遣は、当社が正社員として雇用し、教育を施したうえで企業に派遣するという安定した雇用形態です。それゆえ、技術者が業務に専念できるという環境の中で高い能力や生産性が培われ、派遣先の企業サイドからも高い評価をいただいています。日本国内も低成長期の現在、欧州型の派遣へ

の注目が高まる中で、従来の派遣のイメージを脱却した、当社が提供する「高付加価値の人材派遣事業」が、企業サイドからも人材サイドからも求められていくと確信しています。

今後の御社の展開はいかがでしょうか。

建築業界に限って言えば、建て替え需要は増加傾向にあり、当面仕事は増えていくと思います。最先端ハイテク業界などは、陳腐化によって瞬時に状況が変化することもあります。建築技術者に要求されるスペックは、現場での積み重ねがものを言う世界であり、そういう意味での急激な変化の可能性は少ないでしょう。そうした環境の中で、建築技術者派遣事業については、営業力強化による顧客層の拡大に引き続き力を注いでまいります。また、当社サービスへのニーズは高水準で推移すると考えられ、そのニーズに応えていくためにも人材の拡充が極めて重要なポイントとなっています。

積極的な人材獲得のため、昨年ホームページをリニューアルし、渋谷駅（東京都渋谷区）近くに開設した採用専用のサテライトオフィス「夢探索カフェ」も本年1月より本格的に稼働しています。さらに、採用システムを見直し、技術者採用の門戸を大幅に拡大しました。そうした施策が軌道に乗り始め、採用計画も予定を上回る速度で進捗しています。加えて、新規学卒者の採用に



も力点を置き、2013年春の採用計画を500名としました。この人数は、日本経済新聞社集計の「2013年春大卒採用ランキング」で第18位にランキングされています。新卒者の厳しい入職環境の中で、社会的な意味合いも大きなものとなっています。

最後に株主の皆様へメッセージをお願いします。

世の中の流れは確実に当社にとって追い風になってきています。上場企業で唯一、建設業界に特化した派遣会社として、この流れを逃がさずに着実に取り込んでいくことこそが使命と考えています。さらに、これから本格化する東日本大震災の復興へも、事業を通して積極的にサポートしていきたいと思っています。そのために必要な人員が増加する場合には、採用計画をフレキシブルに運用して貢献していきます。建設業界に新たな担い手を供給することで、当社は「雇用の創造と仕事を通じて、夢を真にする」喜びを提供してまいります。

また、株主様への配当政策も重要な経営施策であり、当第2四半期において1株当たり中間配当を0.5円増配して1.5円で実施させていただくとともに、期末も増配し、年間で3円の配当金とさせていただきます。

株主の皆様には、今後ともご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

インタビュー紹介



櫻井 英明

プロフィール

大手証券会社での機関投資家向け運用トレーダーや「株式新聞Weekly」編集長を経て、ストックウェザー「兜町カタリスト」編集長。ラジオNIKKEIや東京MXテレビなどでキャスターとしても出演中。



順調に進捗する技術者採用計画

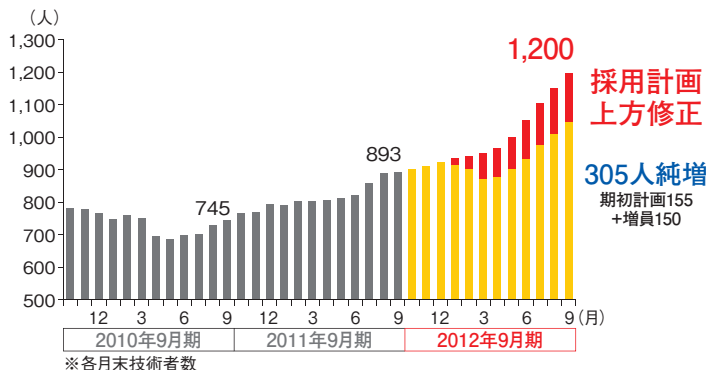
2011年9月末時点での建築技術者数は、前年同月比148人純増の893人という状況でした。その上に立って2012年9月期は当初、技術者を155人純増させ累計で1,048人とする計画でしたが、技術者の不足感の解消には至らないと判断し、さらに150人追加採用の、累計305人純増の計画を立て、人材採用を進めています。

2012年9月期の第2四半期累計期間にあたる2011年10月から2012年3月までの6か月が経過した段階で、採用実績ベースは122人の純増となっており計画を上回る水準で推移しております。建設業界を取り巻く環境は、政府、民間

合わせた建設投資の推移が2010年を底として持ち直しの傾向となっており、特に住宅着工の中でもマンションの着工が著しく改善しつつあります。さらにこれから東日本大震災の復興にかかわる建設工事が加速していくため、当社の技術者へのニーズはさらに高まることが予想され、技術者数の増加が業績の向上に直結する環境は続くと思われれます。このたびの業績の上方修正は、技術者採用が当初計画より進捗したことが大きな要因として挙げられます。

このように技術者の中途採用を積極的に強化し、企業としての成長力を着実に構築するとともに、新卒者の採用

■技術者採用計画の修正



■今後の技術者採用計画



にもさらに力を入れてまいります。2013年春の新卒採用は500人を計画しており、2013年9月末時点で、約1,700人の技術者が整うこととなります。

今後5年から10年で大手建設会社のベテラン技術者がリタイヤすると、建設業界の技術者不足はますます顕著化し、深刻な状態になることが予想されます。そのため、当社としましては、技術者の採用を継続的に強化していき、建設業界の次代を担う若手技術者を育成し、輩出することで企業価値の向上を推し進めてまいります。

マンスリー個人投資家説明会を開催

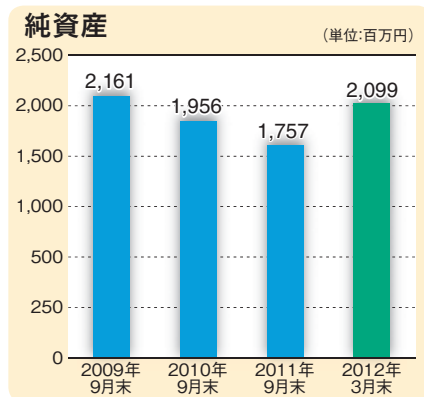
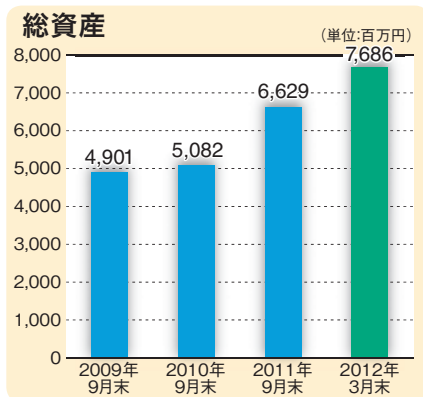
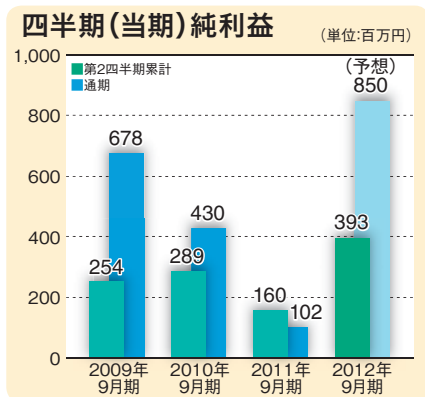
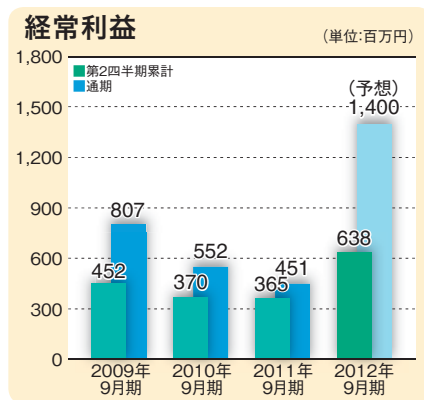
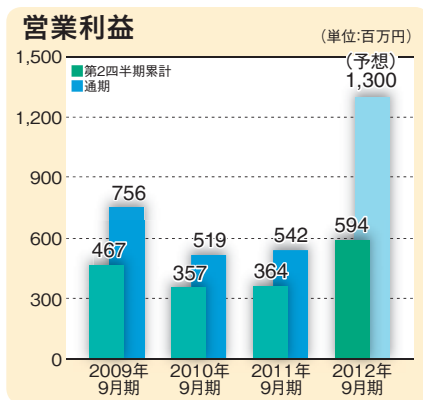
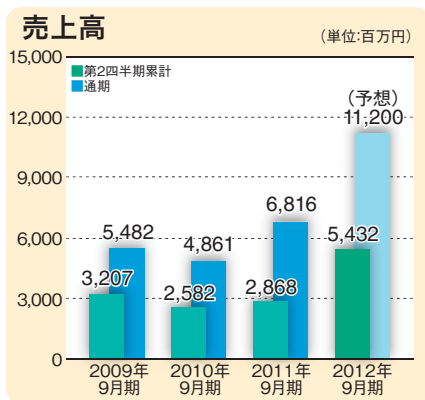
当社は、かねてよりIR活動を重要な経営課題のひとつに位置づけ、積極的に取り組んでまいりました。2012年4月からはその一環として、マンスリー個人投資家説明会の開催をスタートいたしました。平素は人材の採用サテライトとして全国から当社への求職者が集う、東京渋谷の「夢探索カフェ」、通称“ゆめたん”。その当社自慢の人材採用専用サロンで、毎月第3日曜日に、日頃からご支援いただいている株主様や、当社にご興味をお持ちいただいている個人投資家様との意見交換の場として、会社説明会を実施しています。アットホームな雰囲気、どなたでもお気軽に参加できる説明会となっています。ひとりでも多くの方に、当社のことをより深くご理解いただくとともに、皆様からご意見を賜り、さらに充実したIR活動の展開を目指してまいります。



夢探索カフェ：渋谷駅徒歩三分に位置する当社採用専用サテライト。平素は就職活動中の皆様にご利用いただくサロンとして開設されています。

日本IFA協会主催「企業研究会」で紹介

NPO法人日本IFA協会主催の「企業研究会」において、当社が研究対象企業のひとつとして採り上げられ、2012年4月に東京証券会館で行われた同研究会にて、当社IR担当者が、当社のビジネスモデルや経営戦略を紹介いたしました。IFAとは、Independent Financial Adviserの略称であり、日本IFA協会は、特定非営利活動法人として、広く一般国民を対象に、投資に必要な金融知識を普及させるため、真に独立・中立の立場で個人の資産形成・管理に関する教育を行うことを主たる事業としています。同協会では、「個人投資家と企業をつなぐ」という社会的役割を実現するため、独自のビジネスモデルを展開する企業や成長性などで注目度の高い企業を抽出し、その企業を題材として定期的に「企業研究会」セミナーを開催しています。



※2009年9月期通期のデータは、非連結のため単体の数値です。

売上高

中核の建築技術者派遣事において、実質フル稼働の中2012年3月末の技術者数が前年同月末比211名増加して1,015名となったこと、また、エンジニア派遣事業において、主要顧客の業績が回復基調にあること等により、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比89.3%増加しました。

資産

当第2四半期連結会計期間における総資産の残高は、前連結会計年度末に比べて1,057百万円増加し、7,686百万円となりました。これは主に現金及び預金の増加462百万円、受取手形及び売掛金の増加200百万円、投資有価証券の増加342百万円等によるものです。



連結財務諸表 (要旨)

YumeShin

連結貸借対照表

(単位:千円)

区 分	当第2四半期 2012年3月31日現在	前 期 2011年9月30日現在
【資産の部】		
流動資産	4,650,935	3,916,946
固定資産	3,035,927	2,712,703
有形固定資産	1,381,450	1,387,516
無形固定資産	706,115	759,009
投資その他の資産	948,361	566,177
資産合計	7,686,862	6,629,650
【負債の部】		
流動負債	3,421,349	3,400,228
固定負債	2,166,217	1,472,177
負債合計	5,587,566	4,872,406
【純資産の部】		
株主資本	1,887,777	1,572,374
資本金	805,147	805,147
資本剰余金	867,545	867,545
利益剰余金	2,004,862	1,669,909
自己株式	△ 1,789,777	△ 1,770,226
その他の包括利益累計額	△ 11,323	△ 11,594
その他有価証券評価差額金	△ 11,323	△ 11,594
新株予約権	3,142	3,142
少数株主持分	219,700	193,321
純資産合計	2,099,296	1,757,243
負債純資産合計	7,686,862	6,629,650

連結損益計算書

(単位:千円)

区 分	当第2四半期累計 自 2011年10月 1日 至 2012年 3月31日	前第2四半期累計 自 2010年10月 1日 至 2011年 3月31日
売上高	5,432,265	2,868,924
売上原価	3,870,990	1,962,476
売上総利益	1,561,274	906,447
販売費及び一般管理費	966,820	542,360
営業利益	594,454	364,087
営業外収益	137,818	105,407
営業外費用	93,530	104,043
経常利益	638,742	365,451
特別利益	—	1,852
特別損失	3,309	40,265
税金等調整前四半期純利益	635,433	327,038
法人税、住民税及び事業税	216,296	25,558
法人税等調整額	△ 1,273	141,893
少数株主利益又は少数株主損失(△)	26,774	△ 720
四半期純利益	393,635	160,306

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

区 分	当第2四半期累計 自 2011年10月 1日 至 2012年 3月31日	前第2四半期累計 自 2010年10月 1日 至 2011年 3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	383,694	288,042
投資活動によるキャッシュ・フロー	330,598	△ 377,978
財務活動によるキャッシュ・フロー	568,471	△ 480,034
現金及び現金同等物に係る換算差額	19	△ 114
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,282,783	△ 570,085
現金及び現金同等物の期首残高	1,534,745	1,341,573
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	70,900
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,817,529	842,387

負債

当第2四半期連結会計期間における負債の残高は、前連結会計年度末に比べて715百万円増加し、5,587百万円となりました。これは主に社債の減少1,240百万円、借入金の増加1,916百万円等によるものです。

純資産

当第2四半期連結会計期間における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べて342百万円増加し、2,099百万円となりました。これは主に四半期純利益393百万円、剰余金の配当58百万円等によるものです。



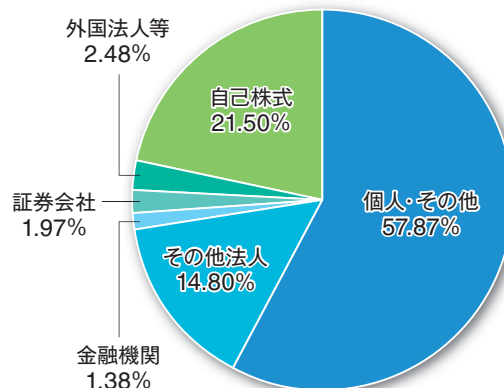
株式の状況 (2012年3月31日現在)

YUMESHIN

- 発行可能株式総数 160,000,000株
- 発行済株式総数 74,573,440株
- 株主数 2,213名

■ 株主分布状況

所有者別分布状況

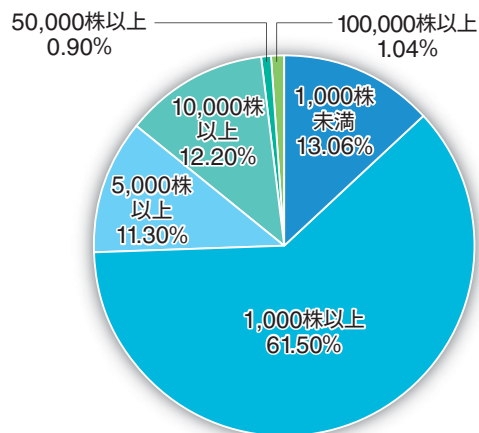


■ 大株主の状況

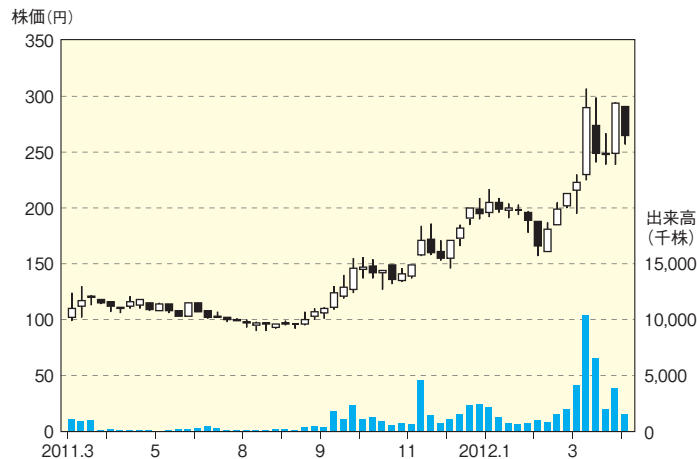
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
佐藤 眞吾	26,259	35.21
投資事業有限責任組合 DRCI	5,653	7.58
有限会社佐藤総合企画	5,287	7.09
佐藤 淑子	3,328	4.46
深井 英樹	1,153	1.55
THE BANK OF NEW YORK, NON-TREATY JASDEC ACCOUNT	886	1.19
楽天証券株式会社	879	1.18
壬生 勇次	602	0.81
佐藤 幹雄	520	0.70
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	514	0.69

(注) 上記のほか、自己株式が 16,031 千株 (発行済株式総数の 21.50%) あります。

■ 所有株数別分布状況



■ 株価の推移





会社の概要 (2012年3月31日現在)

YumesHIN

社名	株式会社 夢真ホールディングス
本社	東京都文京区大塚3-11-6 大塚三丁目ビル
設立	1980年1月
代表者	佐藤 真吾
資本金	8億514万円
従業員数	連：1,976名、単：1,151名
事業内容	建築技術者派遣事業 エンジニア派遣事業 子育て支援事業 医療介護支援事業

上場証券取引所 大阪証券取引所
(JASDAQスタンダード市場)

証券コード 2362

役員

代表取締役会長兼社長	佐藤 真吾
取締役	矢島 英一
取締役	佐藤 大央
常勤監査役	高橋 宏文
監査役	松本 幸夫
監査役	六川 浩明

ホームページのご紹介

当社ホームページの「株主・投資家情報」では、過去の決算短信などのIR情報を見ることができます。また、新卒・中途採用強化の一環として「採用ページ」をリニューアルいたしました。



ホームページ
<http://www.yumeshin.co.jp/>

IRカレンダー (2012年1月～2012年12月)

2012年1月31日	2012年9月期 第1四半期決算発表
4月15日	マンスリー個人投資家説明会スタート
4月19日	日本IFA協会主催「企業研究会」で講演
4月27日	2012年9月期 第2四半期決算発表
5月24日	2012年9月期 第2四半期機関投資家向け決算説明会
5月26日	個人投資家向けIR説明会(東京)
7月下旬	2012年9月期 第3四半期決算発表
10月下旬	2012年9月期 決算発表
11月中旬	2012年9月期 機関投資家向け決算説明会
12月中旬	第34回定時株主総会

株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日
定時株主総会	毎年10月1日から3カ月以内に開催
基準日	定時株主総会：毎年9月30日 期末配当金：毎年9月30日 中間配当金：毎年3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	1,000株
証券コード	2362

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社あてにお願いいたします。

証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 (通話料無料)	フリーダイヤル 0120-176-417
公告の方法	当社のホームページに掲載します。(http://www.yumeshin.co.jp/)ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載します。

株式会社夢真ホールディングス

〒112-0012 東京都文京区大塚3-11-6大塚三丁目ビル



古紙配合率70%再生紙を使用しています

